

小樽市立手宮中央小学校いじめ防止基本方針

平成30年4月1日改訂

はじめに

いじめの問題は、児童が生き生きと学校生活を送ることを妨げる重大な人権上の問題です。

このいじめの問題は、学校を含めた社会全体に関する国民的な課題であり、社会が一体となって対策を進めるため、平成25年6月に「いじめ防止対策推進法」が成立し、同年9月に施行され、同年10月に「いじめ防止等のための基本方針」が示されました。

北海道においては、平成26年4月に「北海道いじめの防止に関する条例」を施行し、同年8月に「北海道いじめ防止基本方針」を決定しました。

小樽市では、児童の威厳を守るために、家庭や市民とともに、いじめの問題に真剣に取り組めます。そして、この取組が、人権に対する理解を深め、地域社会全体で、いじめのような人権侵害から児童を守る意識の高揚につながるよう、「小樽いじめ防止対策推進条例」を制定するとともに、「小樽いじめ防止基本方針」が定められました。

これに基づき、手宮中央小学校では、「いじめは、どの学校でも、どの学級にも、どの児童にも起こりうる」という基本認識に立ち、本校の児童が、楽しく豊かな学校生活を送ることができる、いじめのない学校を作るために「小樽市立手宮中央小学校いじめ防止基本方針」を策定しました。

本校における「いじめ防止のための基本的な姿勢」を示します。

○学校、学級内にいじめを許さない雰囲気を作ります。

○児童、教職員の人権感覚を高めます。

○児童と児童、児童と教員をはじめとする校内における温かな人間関係を築きます。

○いじめを早期に発見し、適切な指導を行い、いじめ問題を早期に解決します。

○いじめ問題について保護者・地域そして関係機関との連携を深めます。

1 「いじめ」とは（法第2条を参照して）

「いじめ」とは、本校に在籍している児童に対して、本校に在籍している等の一定の人間関係にある他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、いじめを受けた児童が心身の苦痛を感じているもの。

学校では、「いじめ」を訴えてきた児童の立場に立ち、この「いじめ」の定義に関わらず、その訴えを真摯に受け止め、児童を守るという立場に立って事実関係を確かめ、対応に当たる。

2 いじめを未然に防止するために

<児童に対して>

- ・ 児童一人一人が認められ、お互いを大切にし合い、学級の一員として自覚できるような学級づくりを行う。また、学級のルールを守るといった規範意識の醸成に努める。
- ・ わかる授業を行い、児童に基礎・基本の定着を図るとともに学習に対する達成感・成就感を味わわせる。
- ・ 思いやりの心や児童一人一人がかけがえの無い存在であるといった生命を尊重する心を道徳の時間や学級活動の指導を通して育む。
- ・ 「いじめは決して許されないこと」という認識を児童がもつようさまざまな活動の中で指導する。
- ・ 見て見ないふりをすることは「いじめ」をしていることにつながることや、「いじめ」を見たら、

他の先生方や友達に知らせたり、やめさせたりすることの大切さを指導する。

その際、知らせることは決して悪いことではないことも合わせて指導する。

<教員に対して>

- ・ 児童一人一人が、自分の居場所を感じられるような学級経営に努め、児童との信頼関係を深める。
- ・ 児童が自己実現を図れるように、子どもが生きる授業を日々行うことに努める。
- ・ 児童の思いやりの生命を尊重する心を育む道徳教育や学級活動の充実を図る。
- ・ 「いじめは決して許さない」という姿勢を教員がもっていることをさまざまな活動を通して児童に示す。
- ・ 児童一人一人の変化に気づく、敏感な感覚をもつように努める。
- ・ 児童や保護者からの話を親身になって聞く姿勢をもつ。
- ・ 「いじめ」の構造やいじめ問題の対処等「いじめ問題」についての理解を深める。特に、自己の人権感覚を磨き、自己の言動を振り返るようにする。
- ・ 問題を抱え込まないで、管理職への報告や学年や同僚への協力を求める意識をもつ。

<学校全体として>

- ・ 全教育活動を通して、「いじめは絶対に許されない」という土壌をつくる。
- ・ いじめに関するアンケート調査を年に2回実施し、結果から捉えた児童の様子の変化などを教職員全体で共有する。
- ・ 「いじめ問題」に関する校内研修を行い、「いじめ」について本校教職員の理解と実践力を深める。
- ・ 校長が、「いじめ問題」に関する講話を全校朝会で行い、学校として「いじめは絶対に許されない」ということと「いじめ」に気づいた時には、すぐに担任をはじめ、周りの大人に知らせることの大切さを児童に伝える。
- ・ 「いじめ問題」に関する児童会としての取組を行う。
- ・ いつでも、誰にでも相談できる体制の充実を図る。

<保護者・地域に対して>

- ・ 児童が発する変化のサインに気づいたら、学校に相談することの大切さを伝える。
- ・ 「いじめ問題」の解決には、学校・家庭・地域の連携を深めることが大切であることを学校だより、PTA役員会、学校評議員会で伝えて、理解と協力をお願いする。

3 「いじめ」の早期発見・早期対応

<早期発見にむけて…「変化に気づく」>

- ・ 児童の様子を、担任をはじめ多くの教員で見守り、気づいたことを共有する場を設ける。
- ・ 様子に変化が感じられる児童には、教師は積極的に声かけを行い、児童に安心感をもたせる。
- ・ アンケート調査等を活用し、児童の人間関係や学校生活等の悩み等の把握に努め、共に解決していかうとする姿勢を示して、児童との信頼関係を深める。

<相談ができる…「誰にでも」>

- ・ いじめに限らず、困ったことや悩んでいることがあれば、誰にでも相談できることや相談することの大切さを児童に伝えていく。
- ・ いじめられている児童や保護者からの訴えには、親身になって対応し、児童の悩みや苦しみを受け止め、児童を支え、いじめから守る姿勢をもって対応することを伝える。
- ・ いじめられている児童が自信や存在感を感じられるような励ましを行う。
- ・ いじめに関する相談を受けた教員は、管理職に報告するとともに委員会を通して校内で情報を共有するようにする。

<早期の解決を…「傷口は小さいうちに」>

- ・ 教員が気づいたあるいは児童や保護者から相談があった「いじめ」について、事実関係を早期に把握する。その際、被害者、加害者といった二者関係だけでなく構造的に問題を捉える。
- ・ 事実関係を把握する際には、学校として組織的な体制のもとに行う。
- ・ いじめている児童に対しては、「いじめは絶対に許さない」という姿勢で臨み、まずいじめることをやめさせる。
- ・ いじめることがどれだけ、相手を傷つけ、苦しめていることに気づかせるような指導を行う。
- ・ いじめてしまう気持ちを聞き出し、その児童の心の安定を図る指導を行う。
- ・ 事実関係を正確に当該の保護者に伝え、学校での指導、家庭での対応の仕方について、学校と連携し合っていくことを伝えていく。

4 校内体制について

- ・ 校務分掌に「いじめ防止委員会」を位置付ける。構成は、校長、教頭、生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラーとする。
- ・ 役割として、本校におけるいじめ防止の取組に関することや、相談内容の把握、児童、保護者へのいじめ防止の啓発等に関するところを行う。
- ・ いじめの相談があった場合には、当該学年主任、担任を加え事実関係の把握、関係児童・保護者への対応等について協議する。なお、いじめに関する情報については、児童の個人情報の取扱い配慮しながら、本校の教職員が共有するようにする。
- ・ 学校評価においては、年度毎の取組について、児童、保護者からのアンケート調査、教職員の評価を行い、その結果を公表し、次年度の取組の改善に生かす。

5 教育委員会をはじめとした関係機関との連携について

- ・ いじめの事実を確認した場合の小樽市教育委員会への報告、重大事態発生時の対応等については、法に即して、小樽市教育委員会に指導・助言を求めて学校として組織的に動く。
- ・ 地域全体で、「いじめは絶対に許されない」という認識を広めることが大切であるということから、PTAや地域の会合等で、いじめ問題など健全育成についての話し合いをすすめることをお願いする。

年間指導計画

	職員会議等	未然防止の取組	早期発見の取組	備考
4月	◎いじめ問題対策委員会会議 ・指導方針 ・指導計画	・いじめ実態把握調査	・相談窓口周知 ・家庭訪問	・ホームページでの周知
5月	○研修会 (児童理解、人権) ・保護者への啓発確認	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> ・学年、学級づくり ・人間関係づくり </div>	・道徳教育の充実	・PTA評議員会での説明と啓発
6月			・行事との関連	・いじめアンケート ・教育相談
7月	・いじめにかかわる学校評価の実施			・PTAとの意見交流
8月	○研修会 (未然防止)			
9月	◎いじめ問題対策委員会会議 ・情報交流 ・1学期の評価及び2・3学期の計画	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> ・学年、学級づくり ・人間関係づくり </div>	・道徳教育の充実	・道教委いじめ調査
10月	○研修会 (早期発見、対応)		・行事との関連	・PTAとの意見交流
11月		・児童会活動の充実	・いじめアンケート	・市教委いじめ防止キャンペーン
12月	・いじめにかかわる学校評価の実施	・情報モラル教室	・教育相談 ・PTAとの意見交流	・道教委いじめ調査 ・市教委いじめ調査
1月	◎いじめ問題対策委員会会議 ・本年度の評価 ・課題の整理 ・次年度の計画作成			
2月			・教育相談 ・PTAとの意見交流	
3月	◎いじめ問題対策委員会会議 ・次年度への計画確認			・市教委いじめ調査